安芸太田町観光協会（tourism association）通信 第20号

広島県山県郡安芸太田町大字上殿632-2（道の駅来夢とごうち内） ☎28-1800

●冬季民泊試験受け入れが終了しました。

１月19日・20日に福山市立芦田中学校（生徒13名、引受け家庭６世帯）および２月９日・10日に尾道市立栗原中学校（生徒19名、引受け家庭８世帯）がそれぞれ来町されました。

雪とは縁のない地域の生徒さんは「雪国民泊」を通じ、さまざまなことを学ぶことが出来たと校長先生から感謝の言葉をいただきました。今回引受けてくださったご家庭からも「楽しかった」「地域に活気が出た」などの言葉をいただきました。

更に引受け世帯、スキー場事業者、スキーレンタル事業者、バス事業者、宿泊事業者など、広く町内事業者へ経済的効果が生じることも確認できました。

まさに三方良しを間違いなく実現できる事業であることを実証できた試験受け入れであったと思います。

●来年冬に沖縄から修学旅行生がやって来ます!!

現在、九州でスキー体験を中心に、修学旅行を実施している沖縄県内の公立中学校120校をターゲットとして、冬季修学旅行獲得を目的とした事業を行ってきました。その結果、来年1月28日～31日に本部町立上本部中学校40名が、雪国文化体験でやって来ます。

なお、沖縄県内の中学校で広島県に修学旅行に来るのも、民泊を実施するのも史上初のことだそうです。校長先生は「日本最南端の豪雪地帯と人情田舎民泊体験に強く惹かれた」とおっしゃられていました。

現在、宮古島からも問い合わせが来ており、この開いた扉をもっと大きくしていくよう、今後も誘致活動を継続していきます。

●安田女子大学×安芸太田町 困りごと解決プロジェクト第３弾が無事終了しました。

安田女子大学の１・２年生が、授業として安芸太田町に訪れ、地域の困りごとを地域住民との協働作業を通じて解決し、交流促進を図るこの企画は、大学側から授業料をいただき運営しています。

いわば「単なるボランティア」を超えた学習教材として、町内の困り事を活用する極めて珍しい試みです。第１弾は与一野地区、第２弾は坪野地区で実施しました。

第３弾は１月27日に、36名の学生が猪山地区の高齢者宅や公共施設の雪かき作業を、地域の方々の指導で行い、猪山に賑やかな声が響き渡っていました。非常に心温まる地域住民と学生達との交流が図られ、地域の方から「やって良かった」との声をいただきました。

この事業では、バス事業者、飲食事業者、地域、物販事業者に経済効果が確認されています。

本年度はこれで全事業が終了しますが、大学側からは早くも、来年度は５回に拡大したいとの希望が来ています。

地域の「困り事」を「地域活性化」の手段にしたいとお考えの地域からの連絡をお待ちしています。

●世界イグルー選手権の「日本最南端の豪雪地帯」ブランドと「恐羅漢＝イグルーの聖地」のブランド化に向けたPR効果について

新聞10回、県内TV５回、県外TV３回、ラジオ５回、インターネットニュース35回の報道回数で、西日本を中心に行った、PR展開による広告換算効果は、なんと2,000万円を超えるものとなりました。

庄原市高野地区の「雪合戦」を抜いて冬のイベント認知度はトップでした。